

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	125人	社会	125人	数学	125人
	理科	125人	英語	125人		

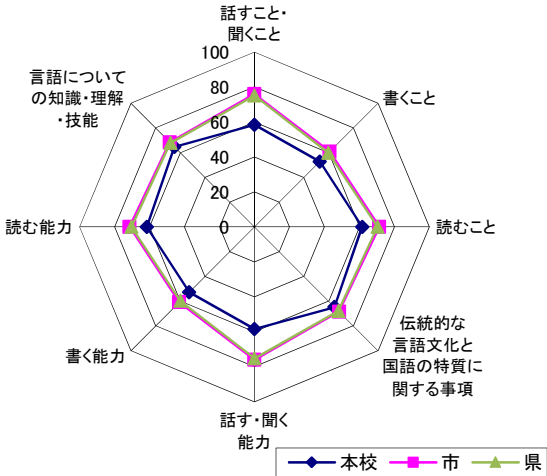
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	58.4	76.0	75.2
	書くこと	52.8	60.9	59.9
	読むこと	61.6	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.8	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	58.4	76.0	75.2
	書く能力	52.8	60.9	59.9
	読む能力	61.6	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	64.8	68.5	68.0



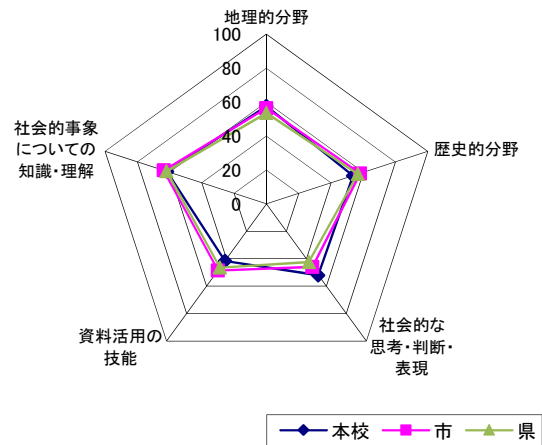
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話を聞いて、自分の考えとの共通点と相違点を整理する問題では、市の平均を1.1ポイント、県の平均を1.3ポイント上回っている。 ●市の平均を17.6ポイント、県の平均を16.8ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・音声教材を使った聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨を正確に聞き取る力をつけさせる。また、授業の中で先生の話や級友の意見を聞きながら、メモを取る訓練を計画的に行う。
書くこと	○市の平均を0.4ポイント、県の平均を2.3ポイント上回っている。目的に応じて推敲する力がついてきている。 ●市の平均を8.1ポイント、県の平均を7.1ポイント下回っている。話し合いの内容を参考に、提案することをまとめて記述する問題の正答率が下がる。	・「書く」教材ではなくても、継続して授業の中に小作文や短作文を書かせる活動を取り入れて、内容をまとめたり自分の意見や考えを作文したりする習慣を身につけさせる。
読むこと	○描写を踏まえて登場人物の心情を捉えることや、文章を読んで、筆者の主張を捉えることができる。 ●市の平均を9.8ポイントは県の平均を8.8ポイント下回っている。特に、物語の展開や表現について自分の考えを記述する問題での正答率が下がる。	・授業の中で文章の展開に即して内容をとらえる作業に重点を置きながら、接続詞に注目して要旨をとらえる方法や指示される内容を理解する力を継続して身につけさせる。 ・朝の読書活動を通じてさまざまな文学作品に触れさせる。また、授業でも文章に即した人物の心情や作品の主題を読み取り、文脈に即した語句の意味の理解を確実にしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書き、熟語の組み立て、歴史的仮名遣いや文節の分け方、表現技法などはよくできている。 ●市の平均を3.7ポイント、県の平均を3.2ポイント下回っている。漢字の「務める」の書きの正答率が8.8%となっている。同訓異字の、意味による書き分けに課題がある。	・漢字プリントを家庭学習の課題とし、単元ごとの漢字テストを行い、間違いを直して返却、定期的にテストを行うことで漢字力の確実な定着を目指す。文脈に応じた同音異字や同訓異字の書き分けを、機を捉えて指導していく。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	57.6	56.4	53.5
	歴史的分野	53.6	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	52.0	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	41.6	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	61.6	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

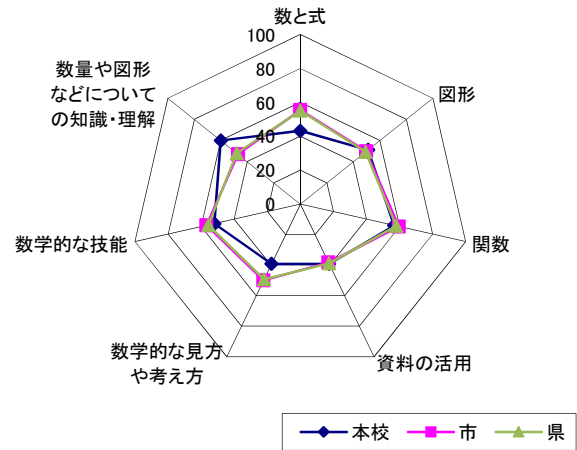
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	○本年度は市の平均を1.2ポイント、県の平均を4.1ポイント上回った。 社会的思考・判断・表現についての項目については市及び県の平均を大幅に上回った。 ●社会的事象についての知識・理解と資料活用 of 技能については市及び県の平均を下回った。	・資料の比較や変化の読み取りなど、複数の資料を活用しながら考えさせるなど、思考力をさらに高めていく。 ・地理的事象についての基本的知識の理解について、理解が十分でない傾向がみられるため、小テストなど行い、用語の理解等を定着させる。
歴史的分野	○本年度は前年度に比べ、0.3ポイント上回った。 社会的思考・判断・表現についての項目については市及び県の平均を大幅に上回った。 ●資料活用 of 技能、社会的事象についての知識・理解について市及び県の平均を下回った。 ●分野別正答率では、鎌倉時代～室町時代にかけて苦手な状況がみられた。	・資料から読み取ったことを記述するなど、資料の読み取りや活用などの力をさらに高めていく。 歴史的意欲・関心を伸ばせるように、視聴覚教材をさらに活用していく。 ・得意な生徒と苦手な生徒との差が大きく開いた問題があった。年表などを活用して、歴史の大まかな流れ等、基礎的知識を定着させていきたい。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	43.2	55.4	55.0
	図形	51.2	49.8	49.2
	関数	56.8	59.6	58.0
	資料の活用	39.2	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	39.2	50.0	49.3
	数学的な技能	52.0	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	60.0	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

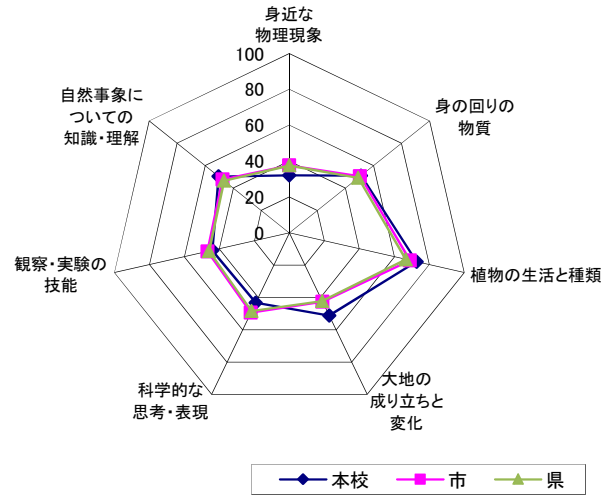
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○分数を含んだ1次方程式の正答率が県平均より高い。 ●正の数、負の数の計算や文字式でつまづいている。 1次式の計算の県・市との正答率の差が大きい。除法や分配法則の技能が身につけていない。 ●与えられた数の中から自然数を選ぶ問題の正答率がかなり低く、用語の意味が定着していない。	・計算技能の定着を図るために、連立方程式や1次関数で式を扱う際に、既習事項として再度確認する。補助プリントを活用し、演習時間を確保したい。 ・方程式では、例題の条件をかえた練習問題に取り組みせ、解き方に慣れさせる。自分で条件をかえた問題を作り、解き合う活動を取り入れる。
図形	○空間図形の直方体に関する問題に対して、正答率が高い傾向にある。実生活の中で見慣れた図形なので、把握しやすいと考えられる。 ●面積や長さを求める図形の計量の正答率が低い。求め方が分かっているが、正負の数の四則計算でつまづいていることが関連すると思われる。また、回転移動に関する正答率が低い。さらに、作図の技法が身につけていない。	・具体的な作図や操作を取り入れることにより、視覚的な理解を促し、平面上で移動した図の見方に慣れさせる。 ・図形の証明を扱う際には、移動と合同などの基本的な図形の性質を振り返りつつ、パターンの反復練習を取り入れる。
関数	○比例・反比例の基礎的な問題については、県平均とほぼ同じ、もしくはそれ以上の正答率となっている。 ●数学的な見方を活用した問題は、県と市の平均を大きく下回ってしまった。	・1次関数の学習時に、身近な題材で比例・反比例の特徴について復習をする。 ・関係式のもつ意味、グラフの意味や見方、表とグラフの関係など根本的な部分の理解を深めさせていきたい。
資料の活用	○度数分布表についてよく理解されている。 ●資料の傾向をとらえて判断し、説明することに課題がある。	・相対度数や階級、階級値、代表値を表すだけでなく資料を「比較する」ことを通して、違いから言えることを考えさせる。 ・今後の確率では、文章を読み取って場面を把握する力が必要であるため、樹形図やパターン分けなど順序よく考えて分かりやすくする方法について指導する。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	32.0	37.6	37.5
	身の回りの物質	51.2	50.5	49.1
	植物の生活と種類	72.8	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	51.2	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	43.2	49.4	48.5
	観察・実験の技能	44.0	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	50.4	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

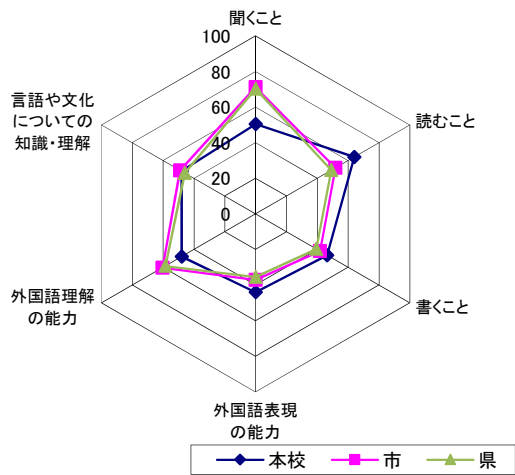
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○県とのポイント差は5.5ポイントと高い。物体を押す力を表すことや圧力の計算は県平均より高い。市の平均と比べると5.6ポイント差があり高い。 ●力の大きさとばねの伸びの関係を示すグラフの修正や数値を読み取り計算をする問題の正答率が低い。	・基本的な計算力を身に着けるとともに、その計算に至るまでの科学的な考え方ができるように、順序立てた考え方を身につけさせる。また、グラフの読み取りを強化する必要がある。
身の回りの物質	○県平均より2.1ポイント高く、市平均と比べても0.7ポイント高い。表を基に析出する個体の質量を選び理由を説明する問題の正答率が高い。 ●実験方法や器具の使い方に関する問題や溶解した物質に関する問題の正答率が低い	・ガスバーナーの使い方や目に見えないものに対するイメージなどを見つける工夫をしていく。
植物の生活と種類	○県平均より6.2ポイント高い。また、市平均と比べても6.8ポイント高い状態である。前年度の指導により植物のはたらきや、分類の知識が身についたことがわかる。 ●今後も前年度の取り組みを続け、より点数の増加ができるように努めていく。	・これからもできるだけ実物を見せ観察したり、実験で見せられるような授業の展開を心がけ、結果や考察を大切にしていける。
大地の成り立ちと変化	○県平均より9ポイント高い。また、市平均と比べても8.5ポイント高い状態である。前年度の工夫から基本的な知識が身に着いたことがわかる。 ●地層や岩石に関する問題の正答率が低い。	・地層ができた時代を推定する問題や、岩石ができた場所の推測を行うなど活用的な問題の拡充を行う必要がある。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	50.4	71.1	70.2
	読むこと	64.0	51.8	49.1
	書くこと	46.4	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	44.0	37.1	35.5
	外国語理解の能力	48.0	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	48.0	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○イラストに合う動作、注意喚起を表す単文を聞き取ることやWhen～？の適切な応答文を聞き取ることが良くできていた。 ●市の平均ポイントを20.7ポイント、県の平均を19.8ポイント下回っている。特にイラストに合う時間を表す単文や本を置く場所を聞き取る問題の正答率が低かった。	・スモールトークやインタラクションを取り入れたウォームアップ活動を行う。 ・リエゾンを意識させた音読を繰り返し行い、ALTとのリスニング活動を積極的に行う。聞き取る時も音のつながりを意識させる指導をする。
読むこと	○人称代名詞の目的格や案内の表から読み取る問題は良くできている。市の平均ポイントを12.2ポイント、県の平均ポイントを14.9ポイントを上回っている。 ●申し出に合う英文の理解や新聞記事に適切なタイトルをつける問題は苦手な傾向がある。	・本文の内容に関して大まかな内容を読み取れるように代名詞を意識した指導をする。 ・5W1Hを使い細かく内容に触れて理解を促す指導をする。
書くこと	○現在進行形の疑問文、Which名詞～？の文を正しい語順で書くことは市のポイントをそれぞれ8.5ポイント、5.2ポイントを上回っており、一般動詞の否定文を正しい語順で書くことは市の平均のポイント13.6ポイント、県の平均のポイント9.1ポイントを上回っている。 ●内容につながるの3文以上の英文を書くこと、季節についての英文を書くことは苦手な傾向がある。	・インタラクションからの言語活動で自分の言いたいことや答えたいことを英語で話す練習をした後に、英文にする作業を丁寧に行う。 ・ターゲットセンテンスを取り入れた「書く」作業を形をかえながら慣れさせていく。

宇都宮市立国本中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

1 傾向
○毎朝朝食を食べている生徒は94.4%と割合が高い。
○学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる生徒の割合が95.2%と高い。
○授業では発表や話し合い活動に意欲を示す生徒の割合が高い。
●平日の学習時間が30分から1時間未満の割合が30%強である。
●昨年度の2年生と比べ携帯やスマホを持つ生徒が20%増えた。
●平日のゲームをする時間が、1時間以上2時間未満の生徒が、昨年度の約20%に対し今年度は約30%に増えた。また、3時間以上4時間より少ないの生徒が、市では8.7%であるのに対し、本校では13.6%である。
●月に1冊も読まない生徒が20%弱でいる。逆に5冊以上の生徒が20%と二極化している。
2 今後の指導上の工夫
・家庭学習ノートを継続させ、家庭学習習慣をしっかりと身につけさせていく。
・宿題提出の徹底と学習相談の充実を図る。
・授業のねらいを提示や、振り返りの内容を充実させる活動を今後も継続していく。
・興味のある、問題解決的な学習や体験的な学習などを、授業に積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実践していく。
・ネットトラブル講習会を実施し、ネット依存の解消につなげていく。
・スマホなどによるゲーム時間の短縮について、学年通信で保護者に呼びかけていく。
・朝の読書の時間を大切にするとともに、図書関係職員と連携し、多読の習慣を身に着けさせる。もって読解力の向上や、学びに向かう姿勢や人間性等の涵養に努める。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習強化週間の実施	・学習強化週間の実施 定期テスト前の1週間、家庭学習ノートを毎日提出し、学習状況を確認していく。 定期テスト3日前から、学習相談を実施。	・学習相談を始めて、参加する生徒の人数が増えてきた。また、自習体制ではなく、学習相談を通して、積極的に質問するようになった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・学習習慣の向上(平日や休日の学習時間の少なさに比例し、テレビを見たりやゲームをする時間が多い)	・スタンダードダイアリーをさらに活用し、学習時間を記入したり、休日の日課表を記入させていく。	・スタンダードダイアリー内の学習時間や、休日の日課表を記入させていくことにより、自分の時間の使い方を振り返りさせる。